

令和3年度シマフクロウ保護増殖検討会

議事概要

1. 開催日時及び開催場所

日時：令和4年3月15日(火) 14:00-17:00

場所：釧路地方合同庁舎5階第一会議室

2. 出席者一覧

【検討委員】(五十音順、敬称略)

齊藤 慶輔	株式会社 猛禽類医学研究所 代表
竹中 健	シマフクロウ環境研究会 代表
中川 元	公益財団法人 知床自然大学院大学設立財団 業務執行理事
早矢仕 有子	北海学園大学工学部生命工学科 教授
藤巻 裕蔵	帯広畜産大学 名誉教授
藤本 智	釧路市動物園 園長補佐
山本 純郎	特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会
渡邊 綱男	一般財団法人 自然環境研究センター

【関係機関】(順不同)

北海道森林管理局計画保全部計画課、日高北部森林管理署、上川南部森林管理署、網走西部森林管理署、網走南部森林管理署、根釧西部森林管理署、根釧東部森林管理署、十勝東部森林管理署、十勝西部森林管理署、知床森林生態系保全センター、北海道開発局開発監理部開発連携推進課、北海道環境生活部環境局自然環境課、公益財団法人 日本野鳥の会野鳥保護区事業所、公益財団法人 日本鳥類保護連盟釧路支部、特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド、株式会社 猛禽類医学研究所

【環境省】

北海道地方環境事務所、釧路自然環境事務所、釧路湿原自然保護官事務所、ウトロ自然保護官事務所、羅臼自然保護官事務所、阿寒摩周国立公園管理事務所

【オブザーバー】(順不同)

根室市歴史と自然の資料館、シマフクロウ環境研究会

3. 議事

(1) 令和3年度シマフクロウ保護増殖事業の実施結果及び令和4年度実施計画について

- ・令和3年度シマフクロウ保護増殖事業実施結果【環境省】
- ・根釧地域における生息環境整備事業について
- ・令和4年度シマフクロウ保護増殖事業実施計画

事務局 資料1-1～3に基づき今年度の結果と来年度の計画について説明

質疑応答、
意見等

- ・生息環境整備の取組は、シマフクロウの保護としては大きな転換の1つ。
- ・このような市民の参加を募った取組を各地で展開することで、シマフクロウの生息環境を一気に良くできる可能性がある。
- ・最終的には上流にある林野の治山ダムも魚が上れるように改良を進めてほしい。環境省と北海道森林管理局、国有林とで協力して、流域全体の魚類環境の改善を目指してもらいたい。
- ・標識調査の雌雄判定について、「検査中」となっている「2」は検査中の羽毛サンプルであり、サンプル数がまとまってから解析するため結果が出るまではしばらくかかる。
- ・給餌について、今後も実際の給餌量や個体の利用状況をモニタリングして検証や議論をする場を設けてほしい。
- ・養魚場についても、新たに個体の現れているところがあるので、そのようなところでも給餌目標を立てたりしながらあるべき姿に持って行く必要がある。
- ・新たに養魚場の利用が始まった場合の対応なども議論しておく必要がある。
- ・その年のヒナの数には予測が難しいので、給餌量は前年度並みとしてもらえると助かる。
- ・生息環境整備について、戦略的、計画的に展開していくことが大事。市民の協力を得ながら、前に進めてもらいたい。
- ・費用節約のため、古くなってダメージを受けた巣箱の補修、再利用も進めているが、問題は無い、コスト減に寄与できている。
- ・森林管理局で購入した巣箱を環境省で設置したりもしており、役所間での協働が評価できる。
- ・引き続き、環境省と林野庁とで協同で取り組んでいってほしい。

・令和3年度シマフクロウ保護増殖事業実施報告及び令和4年度事業計画

【北海道森林管理局】

森林管理局 資料1-4に基づき巡視や間伐、給餌などの結果と来年度の計画について説明。また、平取町で実施している取組について紹介。

質疑応答、
意見等

- ・森林の間伐について、飛翔空間を広げて入りやすくすることに加えて、自然に生えてくる広葉樹等の稚樹が育ちやすくして林内の生物多様性を高めてシマフクロウの住みやすい森をつくるという初期の大きな目的があった。そこをもう一度確認してほしい。
- ・人工林の間伐自体はシマフクロウの生息にとってマイナスではないので、間伐は施業時期などをシマフクロウに影響がないように調節しながら積極的に進めたほうがいい。
- ・シマフクロウの生息地を天然の森に戻すような取組が必要になる。
- ・森林管理局の作成した、「シマフクロウ生息森林の取扱いについて」という方針について、情報を共有したほうがいい。

- ・それぞれの現場で情報交換しながら、シマフクロウ保全と施業との調整をやっていく必要がある。
- ・天然樹洞を回復していくことも長期的な目標としてあった方がよい。
- ・生物多様性の質を高めつつ、シマフクロウの生息にとって良い森をつくっていくためにどうするか、それを施業とどう両立させていくかということも、とても大事なポイントである。
- ・保護林以外の所でも、良い森林環境を作っていく具体的な動きを進めてほしい。

・令和3年度シマフクロウ保護増殖事業実施報告及び令和4年度事業計画【釧路市動物園】
動物園 資料1-5に基づき域外保全の現状と来年度の計画について説明

- 質疑応答、意見等
- ・動物園館での個体の移動や繁殖で生まれたヒナを親と離す時期については、域内関係者の意見も取り入れて検討してほしい。野生のフクロウの情報も積極的に共有する。
 - ・域内保全の関係者と域外保全の関係者とで連携を深め、両者の距離を縮めていきたい。
 - ・終生飼育個体が次世代を生み出した結果は、広く一般の方々にも知ってもらいたい。
 - ・飼育下で得られたヒナで、繁殖させる予定のないものがあれば、野生に戻すことを検討してほしい。
 - ・ハンディキャップを負っていると繁殖までもっていくのは難しい。特に鳴けないオスと片羽のオスについては、繁殖はかなり厳しい。
 - ・鳴かないオス個体を他の強い個体から離して1羽にしてやれば、もしかしたら鳴くようになるのではないか。

・令和3年度シマフクロウ保護増殖事業実施報告及び令和4年度事業計画
【日本野鳥の会】

日本野鳥の会 資料1-6に基づき、新たな保護区の購入や給餌事業などの今年度の活動や来年度の計画について説明

- 質疑応答、意見等
- ・発行された普及啓発のための小冊子を送ってほしい。
 - ・他のシマフクロウ飼育園などにも配布したい。

(2) 関係者からの報告

・令和3年度シマフクロウ保護に関わる事業実施状況及び令和4年度実施計画
【北海道開発局】

開発局 資料2-1に基づき説明

- 質疑応答、意見等
- ・交通事故対策は人間が出来る保護策の1つなので、ぜひ進めてもらいたい。
 - ・これまでに事故が起こったところでも対策が手付かずの場所もある。
 - ・事故の可能性が高い所については、特に橋を中心に、早急に対策をしてもらいたい。
 - ・対策が必要な箇所については、環境省でとりまとめて開発局と相談することにした。
 - ・開発局の中でも、どのような保全対策をやっているかは、情報共有している。
 - ・ロードキル対策は、橋梁だけでは駄目な所もある。専門家への相談を。

- ・交通事故対策については、メンテナンス費用なども含めたコストパフォーマンスも考慮して良い方法を探る必要がある。
- ・地方と国の関連する部署同士でまめに情報交換して、専門家が説明しなくてもある程度理解している状況をつくってほしい。
- ・環境省、開発局、北海道の道路行政の間で情報共有のうまい仕組みができればと思う。

・令和3年度シマフクロウ保護増殖事業実施報告【根室市】

資料2-2は根室市が欠席のため説明を省略

・特定非営利活動法人シマフクロウ基金の設立について

・日本鳥類保護連盟が実施したクラウドファンディングについて【日本鳥類保護連盟】

日鳥連 資料2-3に基づき、シマフクロウ基金とクラウドファンディングの結果について報告

質疑応答、 特に意見、質問なし。
意見等

・令和3年度シマフクロウ保護増殖事業実施報告【NPO 法人シマフクロウ・エイド】

シマフクロウ・エイド 資料2-4に基づき、今年度の活動結果を報告

質疑応答、 特に意見、質問なし
意見等

(3) その他

・シマフクロウ保護増殖検討会設置要領【環境省】

事務局 資料3「シマフクロウ保護増殖検討会設置要領」に基づき設置予定のワーキンググループについて説明

質疑応答、 意見等

- ・今年度は給餌量についての打ち合わせと、普及啓発のワーキンググループを1回開催した。
- ・関係者の中の情報交換のようなものについては、ワーキングよりも少し緩やかな意見交換の場、もしくは情報共有の場として、別途設置したほうが実質的には動きやすいかもしれない。
- ・シマフクロウを知ってもらう方法について、年に1回の検討会で方針を出すことは難しい。
- ・シマフクロウに対して悪い行動をする人たちをコントロールする法的根拠が今は弱いので、そのあたりをどうするかなど、まずは問題点を洗い出すような集まりをもってもらいたい。
- ・話合いの結果については議事録のようなかたちで共有してほしい。
- ・シマフクロウに関するルールづくりは、令和4年度にワーキングを設置して進めていきたい。
- ・打合せなども含め、対応すべき課題が出たときにタイムリーに動けるような運営をしてもらいたい。

・シマフクロウにおける高病原性鳥インフルエンザの脅威と対処【齊藤委員】

委員 資料に基づき鳥インフルエンザの現状と治療、シマフクロウにおける懸念について説明

- 質疑応答、意見等
- ・簡易検査は、最近では検出しなくなったように感じる。情報あれば教えてほしい。
 - ・今年度分かってきた傾向として、ワシでは簡易検査で陽性になりにくい。カラスでは出るので、動物種によって違うのかもしれない。また、PCR 検査での検出についても、気管、総排泄腔、結膜など、採取部位によって差があるようだ。
 - ・（経口投与薬を用いた予防的治療について）今回報告したのはワシの治療についての結果。予防については全く分からない。シマフクロウについては、どのくらい経口投与すれば血中の有効な薬剤濃度が保てるかも分からないので、大学や製薬会社と共同で、終生飼育個体を用いた治験をさせてほしい。
 - ・鳥インフルエンザの薬を投与して体内動態を把握する治験については、動物園の個体を使うことになるので、日本動物園水族館協会や環境省本省の希少種保全推進室と調整し、検討していきたい。
 - ・野生生物保護センターで行っている活動について注意や配慮を加えるなどの方向が出てきたら、この検討会に共有していただき、意見を聞きながら動くという進め方をしてほしい。
 - ・見すごされている不顕性のカモ類がウイルスのベクターになっている可能性もあるかも。
 - ・カモやハクチョウがバタバタ死んでオジロワシがそれを食べている、というような状況ではない。
 - ・鳥インフルエンザに感染しても飛べる状態の個体が、ウイルスを排出しながら長距離を移動している可能性がある。
 - ・レールキル、ロードキルに遭ったシカにカラスとワシが群がって、糞をし、その上をべたべたと歩いていることを懸念している。
 - ・環境省が音頭を取ってワーキンググループなどをつくり、こういう大量死や種の存続の危機につながりかねないものについて、専門家集団で方針を決定して備える必要がある。
 - ・シマフクロウへの感染を防ぐためには、給餌場でフロートを置くなどしてワシの飛来を防ぐことも大事。
 - ・観光餌付けをしている所では、ワシを見たあとの観光客がたくさん来ること考えられる。これを機会にやめてもらうことも考えてはどうか。
 - ・鳥インフルエンザに関しては、ワシの保護増殖検討会での議論も参考になるので、あちらで決まったことや方針があったら、後ほど共有してほしい。
 - ・シマフクロウのリハビリ施設であると同時に一般客も通常訪問する施設に、鳥フルのワシを受け入れることについて、シマフクロウの検討会を含め意見聴取がされていない。環境省はどのように考えているのか。

・提案事項： 標識調査の改善【竹中委員】

委員 資料に基づき標識調査における環境省リング装着の省略提案について説明

- 質疑応答、意見等
- ・標識調査については国際的な取り決めの中でルールにのっとって行われている。
 - ・リングだけになっても個体を識別できるように、環境省リングはあった方がいい。
 - ・カラーリングも環境省が完全にデータベースで管理しているので、シマフクロウの死体についていればそれで個体識別できる。

- ・ほとんど同価値で、個体識別の意味が少し変わってきているのであれば、環境省リングの省略について検討の余地もある。
 - ・標識作業に必要な人員をそろえるための調整が大変だとしても、基本的には標識調査には獣医と環境省がいたほうがいい。環境省が体制を強化していくことはできないか。
 - ・人材を養成して、若い人を実働部隊に加えていかないといけない。
 - ・環境省リングは、普通の学術研究ではなく公的機関がやっているのだと示す意味では大事。
 - ・シマフクロウだけに限定したバンダー資格を与えることを、環境省から山階鳥類研究所に働きかけてほしい。
 - ・後進がやりやすいよう、簡略化できる手続きについては簡略することは大事。
 - ・標識調査体制簡略化と環境省リング省略について、メリットとデメリットを整理しながら議論していくことが必要。
 - ・タンチョウ標識調査も参考に、どのような形が一番いいのか、調整を進めてほしい。
-
- ・繁殖期も始まっており、巣箱へのカメラマンの接近など、急ぎ検討が必要な課題もある。早い段階で情報交換などを行ってほしい。

4. 閉会